

広報 あらあ 特別号 2025



私のまちの輝く人たち



広報 あらあ 特別号 2025

SPECIAL ISSUE 2025
令和7年4月発行

【発行】荒尾市役所 総合政策課 広報統計係
〒864-8686 熊本県荒尾市宮内日出目390
☎ 0968-63-1157 FAX 0968-64-0940 ✉ kouhou@city.arao.lg.jp
(編集・制作 株式会社有明ねっこむ・株式会社NOTE)

UD FONT
BY MOERISAWA



あらお海陽スマートタウン
(競馬場跡地)イメージ

私のまちの輝く未来

その実現のために、さまざまな事業に取り組んでいます!

自動運転バスの試乗会を開催しました

市では、運転手不足問題を解消しつつ、持続可能で利便性が高い公共交通を確保するため、自動運転バスの導入を目指しています。3月に試乗会を開催し、2日間で約200人が自動運転バスの乗車を体験しました。今後、公道での実証実験を重ねながら、「あらお海陽スマートタウン」とJR荒尾駅とを結ぶ路線への導入を目指していきます。



荒尾駅にコミュニティスペース「あらおりビング」オープン!



荒尾駅周辺地域の活性化を目指す「荒尾駅前活性化プロジェクト」として、荒尾駅駅舎の一部をJR九州より賃借し、リノベーションした「あらおりビング」を昨年11月にオープンしました。今後の駅舎に必要な機能を把握し、駅利用者の利便性の向上につなげていきます。荒尾駅のみんなの居場所として誰でも利用できる場となっていて、地域の食材とコラボしたお土産品などをそろえるカフェ「&LOCALS in local荒尾駅」も併設しています。ぜひお越しください。

市内の小学生が梨の木でベンチを作りました。▶

荒尾のまちの未来がより輝くよう、これからも取り組んでいきます!

全国大会出場 /

荒尾府本 ソフトボールクラブ



**祝・全国大会出場！
「荒尾府本SC」夢の舞台へ**

荒尾府本ソフトボールクラブ（荒尾府本SC）が、「第38回全日本小学生男子ソフトボール大会」へ出場しました。「明るく楽しく強くなる」をモットーに、現在男女17人の小学生が所属しています。金島監督は「技術だけでなく大きな声での挨拶や礼儀も大切にしてプレーに活かす」と話します。全国大会では、これまで練習してきたバント・走塁などの機動力に加えて、キャプテンのホームランも飛び出し、見事勝利を収めました。二回戦では敗れてしまったものの、この貴重な経験と日々の練習に励んできた子どもたちの努力はきっと今後の活躍につながることでしよう。

私のまちの輝く人たち

ここ荒尾には、さまざまな想いを抱き、目標に向かって挑んだり、地域を支えようと活動している人たちがいます。これまでの「広報あらお」の特集をもとに、荒尾で輝く人たちをご紹介します。

全国大会3位獲得 /



市長表敬訪問の様子

荒尾スラッガーズ

**積み重ねてきた力を発揮
全国強豪相手に見事戦い抜いた**

荒尾スラッガーズが、昨年7月に和歌山県で開催された「第29回高野山旗全国学童軟式野球大会」で全国3位に輝きました。現在、荒尾市・大牟田市・玉名市の小学生12人が所属。全国大会に向けて特別な強化はせず、走力に自信があったことから、走塁の練習と意識づけを重点的に行ったそうです。日頃から練習してきたこと、今できることをがんばるという姿勢で歩んできた中での3位獲得。「これまでやってきたことは間違いではなかったと実感できました」と吉岡監督は話していました。

その後、浅田市長を表敬訪問し、「今後の活躍が本当に楽しみです」と激励を受け、チームは今後の飛躍を誓いました。

Arao Star 荒尾で輝く / がんばる子どもたち



春季九州大会優勝 / 有明高校 野球部



九州大会で35年ぶり優勝！ チームワークで掴んだ勝利

有明高校野球部が、第152回九州地区高等学校野球大会で大分県代表の大分舞鶴を破り、優勝しました。熊本県勢としては1988年の九州学院以来、35年ぶりの快挙です。新チーム結成後、実力派と期待されながらも秋季大会で初戦敗退という苦しい経験を経て、野球の技術だけでなく、学業・挨拶・マナーなど、野球以外の日常生活の見直しから取り組みました。そのことから、「この勝利は部員全員で勝ち取ったもの」と西コーチは話します。「信頼し合えるチーム作りが結果につながった」と部員は話し、チームは野球を通して成績だけではない、かけがえのないものを得ることができました。

全国大会出場 /

まつやま ゆな 四中 陸上部(当時) 松山 悠南さん



過去の自分を乗り越え全国へ 挑む荒尾の星！

皇后杯第42回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会の予選となるレースに出場し、全国大会に出場する選手に選ばれたのは、取材当時、四中陸上部に所属していた松山さん。幼い頃から走ることが好きで、小学3年生でクラブチームに所属しました。中学進学まではメンタルの弱さが課題で、本番での記録が伸び悩むも、顧問の有田先生との出会いが転機に。スタート前の不安も、先生の「大丈夫！」の言葉とグータッチで緊張を保ち、実力を発揮できるようになりました。支えてくれる家族や仲間への感謝を胸に挑んだ全国大会。前回は補欠だったものの、県代表として第3区を走り、チームは総合順位13位の成績を収めました。

農業に挑む人たち



西嶋農園
にししま はやと
西嶋 隼人さん

農地を広げ、もっとたくさん育てたい

4月から10月は茄子、12月から3月はキャベツを栽培し、ほかにも複数の作物を育てる若手農家の西嶋さん。大雨による川の氾濫で野菜が浸かり廃棄したり、コロナ禍で野菜が売れなかつたりを経験し、それでも農業を続けるのは、収穫の喜びが大きいからだとか。「同じ若手農家との情報交換など、人とのつながりを大切にしながら、体力があるうちに農地面積を増やし、より多くの作物を育てたい」と話します。



かなちゃん農園
すえざき かな
末崎 伽奈さん

夢は観光農園。まずはここから

実家が農家で、幼い頃から手伝いをしてきた末崎さん。農業大学校に進学後、観光農園に5年勤めたのち、スイカ農園だった土地を借り、周囲の協力を得ながらビニールハウスの設営や土づくりから始め、スナップえんどうを栽培しています。将来は観光農園を開くことが夢で、「志は高く、計画を綿密に立てて進めるためにも、まずは『かなちゃん農園』で、スナップえんどうをしっかり育てていきたい」と話します。

起業に挑む人たち



合同会社ねこのて
代表社員・言語聴覚士
もりむね あさひと
森宗 昭人さん



荒尾市起業家支援
センターチャレンジ
プラザあらお
にしだ よしひろ
西田 吉博さん

開業までのスピードが違う!

市内で起業したい個人・団体に創業支援を行う、荒尾市起業家支援センター「チャレンジプラザあらお」。オフィスや会議室・相談室を完備し、創業計画書の作成支援や創業セミナーの開催、個別の経営相談会も無料で行い、起業を考える人たちが相談に訪れます。ここで「ねこのて訪問看護ステーション」を開所した森宗さんも、経営のことは全く分からない状態から、相談することでスムーズに開業できたそうです。



ユナズマム&マル
えがみ なおみ
江上 直美さん

一般社団法人
のあそびlabo
ほした こうたろう
星田 浩太郎さん



街の活性化プロジェクトを活用

「荒尾駅前活性化プロジェクト」の一環として、荒尾駅前の元たばこ屋をリノベーションしたシェアショップを一般社団法人のあそびlaboが運営しています。複数の店舗が日替わりで営業し、「自分の店を持ちたい」「自分のメニューを提供したい」という個人や団体を応援する拠点となっています。「ユナズマム&マル」の江上さんも看護師をしながらお菓子のお店を出店。将来的には自分の工房を持ちたいと考えています。

ものづくりに挑む人たち

丘に佇むカフェレストランを営む中川さんは、家電メーカーの技術者でしたが、荒れた実家の農地を「このままではいけない」と58歳で帰郷し、農業大学校へ進学。さらに専門学校で料理を学びました。「オリーブなら思い描く農業ができるかも」と、日本オリーブオイルソムリエ協会の資格を取得。今では、約3ヘクタールの広大な農園で、ほとんど農業を使わずに千本以上のオリーブを育てています。飽くなき探究心で叶えた美しい景観の前に、多彩なオリーブオイルを料理と共に味わえる、環境にも人にもやさしい営みを行っています。

荒れた故郷を再建
第2の人生に挑む



中川オリーブ農園
〇megane マルメガネ
なかがわ たかし
中川 孝さん



心身を鍛錬し作刀
千年持つ刀剣を

刀匠の松永さんは、古くから伝わる「たたら製鉄」の技法で真剣の日本刀を打ち、切れ味・強さ・美しい刃文を兼ね備えた芸術品として、数々の著名人に献上されています。松永さんは、25歳で荒尾の刀鍛冶・川村清氏の元で修行し、これまで2人の弟子を育て、現在3人目の弟子を育成中です。真剣を使った古武道「小袋流斬試」の宗家として、国内外の門下生の指導も行っています。「伝統工芸を教えるのは大変ですが、教えられるのは幸せなこと」と松永さんは話し、その技術は弟子を通して後世に受け継がれていきます。



松永日本刀鍛錬所
まつなが げんろくろう
松永 源六郎さん



温かな暮らしの器
親子で志す小代焼

「焼き物を作ろう」と突然ひらめいた前野さんは28歳で会社を辞め、約400年に渡り人々の暮らしの中で愛されてきた伝統ある「小代焼」に歩みを進めます。「小代焼瑞穂窯」や沖縄での修行を経て「小代本谷ちひろ窯」を開窯。2003年に国の伝統的工芸品に指定を受けた小代焼の認定伝統工芸士として、前野さんもその技を守り継いでいます。「生活に寄り添う器」を大切に、息子の廉さんと隣り合わせでろくろを回す日々。若き日の前野さんが踏み出した民藝の道は、次の世代へと着実に継承されています。

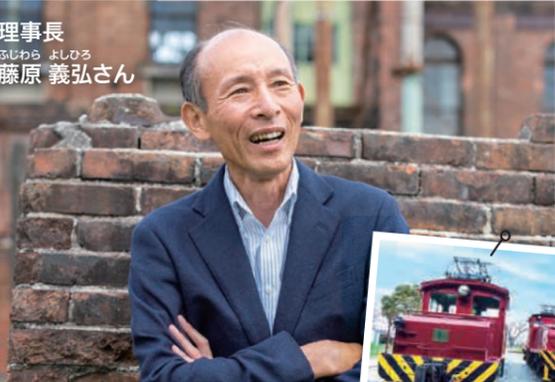


小代本谷ちひろ窯
まえの ちひろ
前野 智博さん



NPO法人 炭鉱電車保存会

理事長
ふじわら よしひろ
藤原 義弘さん



「NPO法人炭鉱電車保存会」は、荒尾市民の心の原風景である炭鉱電車を保存・普及する活動を行っています。理事長の藤原さんは、高校時代に炭鉱電車に魅了され、その魅力を多くの人に伝えるため、写真集の出版や保存活動に力を注いできました。会員は全国に約80人、子どもから80代までの幅広い年齢層が参加しています。明治時代の産業発展に貢献し、万田坑で重要な役割を果たした炭鉱電車。「線路を敷いてもう一度炭鉱電車を復活させたい」と、藤原さんは「昨年万田坑に寄贈された2両のうち1台をいつでも動けるように提言をするなど、これからも炭鉱電車の魅力を伝えるために精力的に活動を行います。」

炭鉱電車に魅了された 活動の輪を広げてきた



三井三池炭鉱 万田坑ファン倶楽部

会長
しんない とおる
陣内 透さん



価値の伝え手となり 万田坑を次世代へ守り継ぐ

「三井三池炭鉱万田坑ファン倶楽部」は約20年前に設立され、現在は元炭鉱マンを含むガイドと、倶楽部立ち上げに尽力した一般会員の計20人が在籍。主に「万田坑ステーション」でガイドやイベントの協力支援、学校への出前講座などを行い、万田坑の魅力や日々発信しています。会長の陣内さんは倶楽部の活動に加え、年4回新聞を自主発行し、万田坑の歴史的价值を発信しています。「万田坑が世界遺産として認められたことは地域の誇りです。炭鉱電車の寄贈で当時をイメージしやすくなり、観光資源だけでなく教育資源にも活用できるようになりました。実物を観ながら生徒などに貴重な財産があることを伝えていきます」と陣内さんは話します。

おもやい市民 花壇の会



「花の癒やしで、まちを明るく」 30年続くボランティア団体

家族のような仲間と まちの癒やしを育む

大島浄化センター敷地内にある「おもやい市民花壇バラ園」は、約1900株のバラが咲き誇ります。「このバラ園を支えるのは、おもやい市民花壇の会のボランティアのみなさん。平成8年の「バラの1株運動」をきっかけに誕生したこのバラ園は、「一時活動休止を余儀なくされるも、「バラを守りたい」と再開。週1回の活動には30人近くが参加し、熊本市や長洲町・大牟田市・みやま市からも訪れます。」
「おもやい」とは「共同で何かをする。分かち合う」という意味。バラが咲く喜びを来場者と共有することをやりに、消毒や草むしり、剪定・肥料の散布などを行っています。花咲く場所は癒しの場。そんな場所が増えれば心が明るくなり、健康にもつながる。バラ園を「コースに入れて散策する人の姿も見られ、会員のみなさんはたっぴりの愛情でバラと向き合い、まちに彩りと元気を与えています。」



「暮らしたいまちづくり」に向かって ゼロカーボンシティ

「エコパートナーあらお市民会議」は市民の環境意識の向上を目指して、約20年前に市役所・企業・各種団体・市民で結成された団体です。環境に配慮した活動を推進し地球温暖化防止に取り組む活動として、市内小学校の協力を得て、各家庭で出される廃食油(天ぷら油)を児童と地域の皆さんに回収してもらい、バイオディーゼル燃料として再生する取り組みをしています。この他、グリーンカーテンづくりやごみ減量化でCO2削減に取り組んでいます。「あらお環境まつり」では多くの市民が参加し、体験をとおして「ゼロカーボンシティ」に向かって安心して暮らせるまちとなるよう活動を進めています。

エコパートナー あらお市民会議



▲廃食油回収 あらお環境まつり▶